

02. ABC と発音の3原則

1. アルファベット (Alphabet)

「アルファベット」というのはギリシャ語の「アルファ」「ベータ」に由来する言い方で、全部で26文字あります。書くときは英語と同じ活字体や筆記体を持ちます。

大文字	小文字	名称	大文字	小文字	名称
A	a	[アー]	N	n	[エヌ]
B	b	[ベー]	O	o	[オー]
C	c	[ツェー]	P	p	[ペー]
D	d	[デー]	Q	q	[クー]
E	e	[エー]	R	r	[エル]
F	f	[エフ]	S	s	[エス]
G	g	[ゲー]	T	t	[テー]
H	h	[ハー]	U	u	[ウー]
I	i	[イー]	V	v	[ファウ][ファオ]
J	j	[ヨット]	W	w	[ヴェー]
K	k	[カー]	X	x	[イクス]
L	l	[エル]	Y	y	[イプシロン]
M	m	[エム]	Z	z	[ツエット]

さらにドイツ語特有の文字として以下のものがあります。

Ä	ä	[アー・ウムラウト]	(A-Umlaut)
Ö	ö	[オー・ウムラウト]	(O-Umlaut)
Ü	ü	[ウー・ウムラウト]	(U-Umlaut)
	ß	[エス・ツェット]	(Eszett)

a. 5つの母音

A, E, I, O, U は日本語の[ア][エ][イ][オ][ウ]とほぼ同じ発音ですから、ドイツ語はほとんど日本語のローマ字のように読むことができます。

b. 5つの子音

H, J, V, W, Y は特に英語と異なる読みを持つ子音ですから気をつけましょう。

c. よく似た発音の子音

B と W はそれぞれ[ベー][ヴェー]と発音します。

BMW (Bayerische Motorenwerke) [ベー・エム・ヴェー]

L と R はそれぞれ[エル][エル]であって、その区別は日本人には難しいのです。

L は[エ]のあとは舌の先を上歯の裏につけて[ル]と発音します。

Land [ラント] 「陸」

R は[エ]のあとは舌の先を口中の上(上口蓋)につけ、舌の先を振動させて[ル]と発音します。

Rand [ラント] 「へり」

あるいは、R にはのどびこをふるわせて発音する「舞台発音」というやりかたもあります。

d. ウムラウトとエスツェットの成り立ちとその意味

ウムラウトは「変音」という意味で、元来 A, O, U という母音のあとに E という母音があったものが合体して一文字となったもので、日本語の濁音と同様に、もとの音とは少し違って発音されます。

Ä は AE のことをあらわし、発音は A と E の中間の音で[アー]に近い[エー]

Ö は OE のことをあらわし、発音は O と E の中間の音で[オー]に近い[エー]

Ü は UE のことをあらわし、発音は U と E の中間の音で[ウー]に近い[イー]

したがってもとの A, O, U とは発音が変わるため、この3種の母音は「変母音」とよばれています。

エスツェットは s と z をあわせて一文字としたもので ss の意味でもちいられますが、小文字のみで大文字はありません。つまりエス・ツェットは文章や単語の始めにはもちいられない、ということです。

これらのドイツ語特有の文字をコンピュータで入力するには

Windows ではコンピュータのキーボードをドイツ語配列に指定しなくてはなりません。[スタート]→[コントロールパネル]→[キーボード]→[地域と言語のオプション]→[言語]→[詳細]→[追加]の順にウィンドウを開き、さらに[ドイツ語(ドイツ)]を選択して[OK]をクリックし、最後に[テキスト サービスと入力言語]の画面で[適用]をクリックすれば設定が完了します。これで[左Alt]と[Shiftキー]を同時に押すたびに、キーボード配列が英語用、ドイツ語用と変わります。この場合は[;], [:], [@], [-] がそれぞれ [ä], [ö], [ü], [ß] に対応します。しかしこの方法だとキーボードの文字配列も英語配列からドイツ語配列に変わってしまい、例えば [y] と [z] の位置が逆になるため、慣れるまでは混乱するでしょう。もし Microsoft Word をもちいている場合は、半角英数入力モードでControlキーと [:] を押したあとにそれぞれ [a], [o], [u] を押すと [ä], [ö], [ü] が、ControlキーとShiftキーと [6] を押したあとに [s] を押すと [ß] が入力されます。

Macintosh では半角英数入力モードでOptionキーと [u] を押したあとにそれぞれ [a], [o], [u] を押すと [ä], [ö], [ü] が、Optionキーと [s] を押すと [ß] が入力されます。

便宜的ですがもっとも簡単なやりかたは [ä], [ö], [ü] はそれぞれ [ae], [oe], [ue] とし、[ß] は [ss] と入力すればよいのです。こうすればこの国のひとにもこれらの文字が理解できますから便利です。ただしこれらの文字を手書きで書くときには必ず ä, ö, ü や ß と表記しなくてはなりません。

2. 音節の概念

ほとんど全ての単語の発音は母音と子音の組み合わせから成り立っています。この組み合わせの最小単位を「音節」と呼んでいて、どの単語もこの音節を1つまたはそれ以上組み合わせて構成されています。原則として、音節は発音が自然にとぎれるところが音節の最小単位となっています。

単語の一番最初にある音節を「第1音節」といって、それ以降は発音が自然にとぎれてゆく順に「第2音節」「第3音節」などと呼んでいます。

「本」	[hon]	1音節	「学校」	[gak-ko]	2音節
「学ぶ」	[ma-na-bu]	3音節	「ドイツ語」	[do-i-tsu-go]	4音節

3. 発音の3原則

現代日本語は原則としてつづりと発音が一致している言葉であって、わずかに助詞の「は」「を」などが一致しない程度です。英語はむしろつづりと発音がほとんど一致しないという点で、世界的にももっとも発音が難しい言葉といえるでしょう。

ドイツ語は日本語と同様につづりと発音がほぼ一致するという点で、発音に関していえば日本人にはなじみやすい言葉なのです。さらに発音に関しては次の3つの原則があり、これは英語と比べてドイツ語の発音が簡単な点でしょう。しかしこれはあくまでも「原則」であって、例外もあることは知っておいて下さい。

a. 原則としてローマ字と同じように発音します。

Name	[ナーメ]	「名前」	Bett	[ベット]	「ベッド」
Haus	[ハウス]	「家」	Traum	[トラウム]	「夢」

b. 原則として子音が1つの前の母音は長く発音します。

Gas	[ガース]	「ガス」	Glas	[グラス]	「ガラス」
-----	-------	------	------	-------	-------

しかしアクセントのある母音のあとに子音が2つ以上あれば短く発音します。

kommen	[コメン]	「来る」	Butter	[ブッター]	「バター」
--------	-------	------	--------	--------	-------

c. 原則としてアクセントは最初の母音におかれます。

danken	[ダンケン]	「感謝する」	Mutter	[ムッター]	「母」
--------	--------	--------	--------	--------	-----

すなわち、ドイツ語のアクセントは単語の第1音節にあるのが特徴なのです。しかし接頭語が付いている単語や外国から入ってきた外来語は、このアクセントの原則はあてはまらないのが普通です。

4. 名詞の頭文字は大文字で書き始める

もうひとつ、ドイツ語が英語と違っている点は「名詞はどんな名詞でもすべて大文字で書き始める」という約束です。英語はひとの名前や地名などの固有名詞は大文字で書き始めますが、ドイツ語は17世紀ころからあらゆる名詞を大文字で書き始めて、文章の中でほかの品詞と区別しやすくすることになりました。

したがって、文章の中で名詞を見分けるのはきわめて簡単です。さらに辞書を引いても、英語のように名詞をあらわす略記号(英語の場合は *n.* = *noun*)はありません。